

公益財団法人 山陽放送学術文化・スポーツ振興財団
第6回（令和7年度）スポーツ振興助成
（スポーツ振興奨励賞・スポーツ振興特別奨励賞）受賞者一覧

【スポーツ振興奨励賞】

氏名・グループ名	候補対象理由
IPU・環太平洋大学女子 柔道部	2025年6月の全日本学生柔道優勝大会（5人制）、10月の全日本学生柔道体重別団体優勝大会（7人制）において、見事優勝を果たした。初の二冠達成から、12年ぶり2度目の快挙である。団体女子の5人制は2年ぶり4度目、7人制は4年ぶり6度目の優勝。選手たちの努力と指導陣の熱意が集結し、偉業を達成した。 戦術の完成度、チーム全体の一体感が勝利へと導いた。創部以来築いてきた『自分に嘘はつかない練習』を継承し、部員一丸となって日々練習に励んでおり、今後益々の活躍が期待される。
岡山県立井原高等学校 男子新体操部	第40回全国高等学校新体操選抜全国大会（2025年3月）、令和7年度全国高等学校総合体育大会（2025年8月）、国民スポーツ大会（2025年9月）の団体競技において優勝し、岡山県で初となる三冠を達成。全国高等学校新体操選抜全国大会では13年ぶり2度目、全国高等学校総合体育大会（インターハイ）では2年ぶり8度目、国民スポーツ大会では20年ぶり2度目の優勝。全日本新体操選手権（2025年11月）では、高校ではトップとなる3位と大健闘した。 日本の新体操を牽引するトップチームとして、今後益々の活躍が期待される。
氏名・グループ名	候補対象理由
かわむら りさ 川村 莉沙 (株式会社ビックカメラ)	ソフトボール競技において、創志学園高等学校在学中の2017年全国高等学校選抜ならびに全国高等学校体育大会（インターハイ）で主力選手として活躍し、両大会で優勝に貢献。高校卒業後、2018年にJDリーグ加盟チームである太陽誘電、2022年からデンソーに所属し、2025年からは現在所属のビックカメラに移籍し、日本のトッププレイヤーとして活躍。2021年、2022年、2023年、2025年に日本代表選手入りし、数々の国際大会で実績を残す。 2028年ロサンゼルス五輪の指定強化選手となり、今後の活躍が期待される。
氏名・グループ名	候補対象理由
きむら きら 木村 葵来 (ムラサキスポーツ)	小学6年生で競技を始め、中学2年生でプロ資格を取得し、早くから卓越した才能を発揮。2023-24シーズンのFISスノーボード・ワールドカップにおいて、ビッグエア種目で年間ランキング1位に輝く。2025-26シーズンのワールドカップでは複数回表彰台に上がり、安定したトップレベルの実力を発揮。持ち前の運動神経を生かした独創的で高難度のトリックと完成度の高い滑りは高く評価されている。日本代表として出場した2026年ミラノ・コルティナ冬季五輪のスノーボード男子ビッグエアでは見事金メダルを獲得した。 今後も世界トップレベルの活躍が期待される。
氏名・グループ名	候補対象理由
くろだ あさひ 黒田 朝日 (青山学院大学) ※2025年度	2026年1月の第102回箱根駅伝では往路5区（山上り）を担当し、1時間7分16秒の区間新記録を樹立。従来の区間記録を約1分55秒更新する圧巻の走りで、大会史に残る快挙となった。青山学院大学は往路優勝を果たし、最終的に総合優勝（3連覇）を達成。その活躍が評価され、大会最優秀ランナーに贈られる金栗四三（かなぐり しぞう）杯を受賞した。 高い持久力と勝負強さを兼ね備えた日本陸上界を担う長距離ランナーとして、今後益々の活躍が期待される。

氏名・グループ名	候補対象理由
<small>こんま ゆうと</small> 金万 結音 (スペシャルオリンピックス日本岡山)	<p>2025年度の陸上短距離種目で岡山県大会での三連覇達成、ならびに全国大会での二種目表彰台という好成績を収める。2025年5月に開催された「第25回岡山県障害者スポーツ大会(きらりんピック)」では、少年100mにおいて11秒94で優勝。100mでは同大会3年連続1位という不動の地位を確立した。同年10月の全国大会「わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ2025」において、男子200mで第2位(銀メダル)、100mで第3位(銅メダル)に輝き、出場した全種目でメダルを獲得するという快挙を成し遂げた。</p> <p>日々厳しいトレーニングに励んでおり、更なる飛躍が期待される。</p>

氏名・グループ名	候補対象理由
<small>よしだ うたな</small> 吉田 唄菜 (木下アカデミー)	<p>岡山県倉敷市出身のアイスダンス選手として、高い表現力と安定した技術を武器に活躍。森田真沙也選手とペアを組み、2024年および2025年の全日本フィギュアスケート選手権アイスダンスで2年連続優勝を果たす。2025年アジア冬季競技大会では金メダルを獲得し、国際舞台でも高い競技力を示した。2026年ミラノ・コルティナ冬季五輪では日本代表として団体戦メンバーに出場し、表現力に優れた滑りをみせ、銀メダル獲得に貢献した。</p> <p>今後も日本のアイスダンスを牽引する存在として、世界レベルでの活躍が期待される。</p>

【スポーツ振興特別奨励賞】

氏名・グループ名	候補対象理由
<small>ところ つとむ</small> 所 努 (岡山県立総社高等学校)	<p>県立高校ハンドボール部の指導に携わり、総社高等学校では全国高等学校選抜大会および全国高等学校総合体育大会において複数回の3位入賞を果たし、2010年以降は国体・国民スポーツ大会岡山県少年男子監督として代表チームを指導。岡山県ハンドボール協会指導委員長として公認コーチ養成講習会を開催し、県内外指導者の資格取得・更新を支援し、指導体制の底上げと地域チームの活動環境整備に尽力する。</p> <p>U19日本代表の指導経験を通じて得た高度な知見を地域へ還元し、選手・指導者双方の意識改革と育成水準の向上を図っており、今後もハンドボール振興への貢献が期待される。</p>

氏名・グループ名	候補対象理由
<small>ひらお ゆたか</small> 平尾 豊 (岡山県ホッケー協会)	<p>ホッケー競技において中学生選手の育成に携わり、高い指導力を発揮してきた。岡山県ホッケー協会事務局長を25年間務め、理事長として協会運営と競技の発展を牽引。日本ホッケー協会では審判長、技術委員長、強化本部長を歴任し、特に技術委員長として18年間にわたり日本のホッケールールブック作成に尽力。強化本部長として男子・女子両全日本チームをワールドカップ出場へ導くなど、日本ホッケー界全体の発展に大きく寄与した。</p> <p>競技基盤整備にも積極的に取り組み、地域から国際レベルに至るまでホッケー振興に尽力しており、今後も更なる貢献が期待される。</p>